

博多三大祭りの一つ、9月中旬に開催される筥崎宮の「放生会（ほうじょうや）」名物「放生会おはじき」の販売が今年から中止されることになった。おはじきは、悪災を“はじく”縁起物として博多人形師らでつくる「白彫会」が毎年テーマを変えて手作りされ、放生会の初日に二十数個入り3000円のセット1200箱が限定販売されてきたのだが、ここ数年は購入希望者が前々日から並び始めるなど人気が過熱。ネットのオークションでも高値で取引され、販売前に配布する整理券もオークションに出回る始末。白彫会の小副川祐二会長は「参拝の記念の一つとして作り始めたが、おはじきを買いに訪れるという本末転倒の事態になってしまった。これまでの流れを一度元に戻したい」と話す。

これを見て、返礼品目的で大ブームとなった「ふるさと納税」の返礼品をやめた埼玉県所沢市を思い出した。「どこの返礼品をもらおうとか、テレビ番組の返礼品特集とか、理念と違う。本来は自分を育ててくれた、世話になった場所に感謝や応援する趣旨だったはず。それをモノで釣って、よその自治体に納められるはずだった税金を自治体間で奪い合う始末。納税者もモノを得ることに夢中だ。他の自治体から奪う必要はなく、救われるべき弱小自治体にふるさと納税されれば、それで構わない。」と藤本正人市長の弁。なるほど！

本来は自分を救ってくれた神に礼を捧げるべきである礼拝や教会が、牧師の説教が上手いからとか、音楽演奏が聞きたいからとか、本来あるべき信仰からかけ離れていることが多く、思わず膝を打った。

**「もう、むなしいささげ物を携えて来るな。香の煙——それもわたしの忌みきらうもの。
新月の祭りと安息日——会合の召集、不義と、きよめの集会、これにわたしは耐えられない。洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたがたの悪を取り除け。善をなすことを習い、公正を求め、しいたげる者を正し、みなしごのために正しいさばきをなし、やもめのために弁護せよ。」**
イザヤ書1章13,16,17節、

と神さまはいい加減な信仰者に対してスゴイ剣幕で怒っておられる。今さらではあるが、襟を正してイエスを敬い、困っている人を愛し助けよう。
2017-7-15

